レッスン：27M

テーマ：質問と答え

MAC27/ME/S14.KE3/DOC

私の兄弟、姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖なる質によって抱かれています。

　　今回のレッスンは会員からの質問に対する答えから成っています。それらの質問は、質問した当時、忍耐をもって待ち、私たちが答える前に自分自身にも時間を与えるように、と述べたものです。質問者に忍耐を要求する理由は、質問された時に答えがわからないからではなく、質問に対する答えが十分に理解されるためには、宇宙論における他の面の理解が前提になるからです。それらの面のいくつかが近い将来カバーされることがわかっている場合には、混乱と誤解を避けるために私たちは“忍耐”をもって待つよう要請します。多くの省察と多くの“シロジスモ”（＊瞑想）の後に到達したものが、その人自身の真の知識となることがしばしばあります。そのような知識とは、私たちが“全ての人々に属すが、誰の所有物でもない”と述べる知識です。

時間を経るうちに、同じような質問を繰り返し受けることがあります。少し前に答えを聞いている人が、再び同じような質問をすることがしばしばあります。なぜでしょうか？その人の記憶力に問題があるのでしょうか？勿論、そうではありません。人が忘れることなく情報を保つ唯一の方法は、その人が質問と答えの両方にフォーカスすることです。

同様に、本やレッスンを読み直してみると、以前全てのページをきちんと読んだにもかかわらず、かなり多くの情報が頭に入っていなかったことに気づくことがしばしばあります。その理由は、マインドは書かれている内容全てに完全にフォーカスしていなかったのです。時には、人は言われたことに一時的に感銘を受けますが、すぐに忘れてしまうこともあります。しかし、この“provlimatismos”（ギリシャ語、？）は、適切な刺激、そして恐らく適切な答えが与えられると、潜在意識のマインドから再び浮上してきます。

**質問**：太陽神経叢に集中することによって、人はセルフヒーリングを達成し、さらに病気の問題を除去することができるでしょうか？

**K**：セルフヒーリングの最良の方法は、自分の気づきのレベルに働きかけることです。そのパーソナリティーが経験している痛みは、原因の結果であることがしばしばです。完全な治癒を達成するためには、原因に対してヒーリングのワークが向けられることが大切です。そしてその原因が、思考・行動の仕方であることがしばしばです。

もし身体の苦しんでいる部分にエネルギーを集中すると、その苦痛が軽減されず、そこにフォーカスすることによって、あなたが与えるエネルギーによって反対に痛みが増す、という危険すらあります。

**質問**：どれ、あるいはどのような思考が問題の原因であるかを、どのようにして見出すのですか？

**K**：それはそれほど簡単ではありません。時には多くの時間が必要になり、時には助けが必要になることさえあります。しかし、それが唯一の方法です。人は、表現、現れの周波数を変えなければなりません。それはあたかも、別のラジオ局に同調するために別の波長に入るようなものです。そうすると、あなたが築いたエレメンタルは影響を及ぼさなくなります。なぜなら、表現、現れは別のレベルのバイブレーションと共鳴する、つまり、思考・行動の仕方として新たな周波数と共鳴するからです。

Page2

**質問**：それまでそのパーソナリティーに影響を与えていたエレメンタルから逃れるために、波動のレベルをどのようにして変えるか、をもっと詳しく述べてくれますか？

**K**：気づきに働きかけて、いかにして変化をもたらすかですか？それはエンドスコピシスのワークを通じてです…つまり、

適切な自己分析と自己観察のワークです。真理の探究者のまじめなワークは全て、エンドスコピシスのワークです。

私たちはそれを瞑想(meditation)とは言いません。それは正確な言葉ではないからです。私たちがやろうとしていることは、外から何かに適応することではなく、むしろ私たち各人の中に既にあるものを現すことです。

私たちの中にもともとないものを現そうとするのではありません。現れてくるものは既に私たちの内側にあるもので、無知…現在のパーソナリティー、Lifeの現象の無知…ゆえにこれまで現れていなかったものです。

現在のパーソナリティーとして私たちはLifeの現象です。そして今やパーソナリティーはその事実に気づき、Lifeそれ自体をゆっくりと徐々に表現するポイントに到達するために、“意識的に”リンクを築こうとします。

現在のパーソナリティーである私たちはLifeの結果ですが、私たちの真の本質としての特性を表現していません。Lifeの現象である私たちは神のアイコンであり、似姿ではありません。確かに、*現在のパーソナリティーを転生させるスパークとしては、*私たちは似姿です。なぜなら、このスパークはLifeそれ自体から発しているからです。

さて、Lifeのスパークとしての私たちのセルフを現す適切な方法は、いわゆるエンドスコピシスです。物差し、基準として知識が使用され；エーテルの様々な質をマスターするために、私たちの体のダブル・エーテリックをマスターするためにエクササイズを使用する必要があります。そして、これを行うことによって現在のパーソナリティーの不定形な形に働きかけ、ゆっくりと、ゆっくりとそれらを再形成していくのです。もう一つのエクササイズは意識の諸センター、そして現在のセルフ・エピグノシスに刺激を与え、それによって全体として現在のパーソナリティーに健康をもたらします。もう一つの重要なワークは、与えるというワーク、同胞の人間の苦しみを軽減するためのワークです。

このワークを行うためには、モデルそして基準が必要となります。その基準とは知識であり、あなた方はそれを既に経験的知識を有している誰かから得るのです。

これが自分の気づきのレベルを高めるための適切かつもっとも安全な方法です。私たちは幼児的パーソナリティーからパワーと能力の現れを求めようとはしません。言い換えれば、テクニカルな手段の結果として、魔術の結果としてパワーと能力を現すことは望まないということです。エレブナはいかなる形態の魔術にも反対します。なぜなら、確かに魔術の実修によって多くのパワーと能力を現すことができますが、しかし不幸にも、それらのパワーと能力はそのパーソナリティーを、反対の方向にそれらを使うように導いてしまうからです。

**質問**：過去からの結果としての現在のパーソナリティーである自分を理解する助けとして、アストロロジーとチャネリングを利用することには反対ですか？

**K**：今日のあなたは過去生の結果です。それゆえ、気づきのずっと低いレベルを現しているあなたを尋ね、見る必要はありません。そのような過去のあなたを受け入れることは困難であり、心が乱されることさえあるでしょう。あなたの気づきの上昇の結果としてパワーと能力を表現することができるレベルに到達すれば、それはあなたの真の表現であり、実修、練習によって得ようとするものではないことがわかるでしょう。その時あなたは、あなたの真の本質である特性をもっともっと表現するようになるので、あなたは本来のあなたであるのです。それは実修、練習するというものではなく、それはあなたの真の現れです。それは真理の探究者の努力であり、それが唯一の正しい道であることを信じてください。

**質問**：人々に助けを提供する場合、いかにして彼ら自身の道に干渉せずに助けを与えることができるのですか？

Page3

**K**：まず、彼らがあなたにそれを要請する必要があります。その特定のパーソナリティーからのいかなる努力もなしに、その人を助けることはできません。あなたは誰かが助けを必要としていると判断することによって、その人のプライバシーを破ることはできません。結局、干渉する私たちとは誰でしょうか？絶対愛は干渉しません。あなたの態度、あなたのスマイル、同胞の人間に対するあなたの関心によって、彼らはあなたが自らすすんで彼らを助け、抱きしめようとするのがわかるでしょう。もし、彼らが助けを必要とするなら、彼らはあなたに依頼することでしょう。ですから、私たちは他人の自由意志に干渉するべきではないのです。

**質問**：転生について一つ質問してもいいでしょうか？人間は常に男性あるいは女性のどちらかだけに性として転生すると聞いたことがありますが、それは本当ですか？

**K**：ノー、それは違います。ある転生では女性として生まれ、その次の転生では男性として生まれるかもしれません。それは、そのパーソナリティーが経なければならない体験のタイプによります。

**質問**：時々、白昼夢を見ていて、過去生のシーンに似た光景全体が目の前に現れることがあります。

**K**：しかし、あなたが見ているものがあなたの過去生だと確信できますか？もしかしたら、それは他の人のものかもしれません。多くの人々、そして神秘家でさえ、自分たちは過去生において誰それであったと主張しています。これは非常にしばしば起こっています。なぜでしょうか？なぜなら、全てはあらゆるものの中にあるからです。私たちの潜在意識は汎宇宙的潜在意識の中にあるからです。

前のレッスンで、

現在のパーソナリティーは多様性の能力を現すと述べました。私たちは同時に様々な場所に在ることができるのです。さらに私たちは、一つの場所からだけでなく同時に他の場所からも自分自身を観察することができます。私たちは意識のセルフ・エピグノシスを拡大させることもできるし、あるいはそれを特定の場所に広げることもできます。

以前述べたように、この二元性の結果、私たちは自分の存在を理解することができるのであり、もしこの二元性が終わってしまうなら、誰かが植物になる現象が生じます。

それゆえ、**多様性という能力、そして二元性を使用することによって、誰かが自分自身を異なった場所から、あるいは３つ、４つ、５つ、10という多くの異なった場所から観察することができるのです。**

いずれにせよ、現れるという現象の背後には原因があり、何らかのリアリティーがあるのです。パーソナリティーがこのリアリティーにアプローチする仕方は気づき、つまりそのリアリティーが通過するフィルターに依存します。ファンタジー（空想）でさえもその背後にはリアリティーがあります。何もないところから何かを現すことはできません。たとえあなたが映画、例えばサイエンス・フィクションを見るときでさえ、その映画の背後には多くの真実とリアリティーがあるのです。しかし、どのようにそのリアリティーにアプローチし、表現するかは別の問題です。

**質問**：エンドスコピシスを夢、ファンタジー、あるいはその他何にでも使うべきでしょうか？

**K**：エンドスコピシスのワークを通じて、イリュージョンは次第に脇に置かれるようになり、あなたの夢の背後のリアリティーをもっともっと生きるようになるでしょう。あなたのファンタジーですらリアリティーに近いものとなるでしょう。しかし、勿論それはゆっくりそうなるのであって、突然そうなるわけではありません。私たちは心配を表現しないことを学ぶ必要があり、忍耐強くあるべきです。

**質問**：エレブナでは現在の瞬間を生きるようアドバイスしています。しかしほとんどの場合、私たちの行為は未来にこうなって欲しいという期待、願望にもとづいています。

**K**：人間は通常、未来のために現在を犠牲にしていますが、それは間違っています。もしあなたが未来のために何かを計画したいなら、現在の瞬間からスタートし、現在を最大限に活用する必要があります。

**質問**：はい、でもその時私たちの行為は、未来にこうなって欲しいと思う期待によって影響されてしまいます。

**K**：影響されるべきではありません。あなたは未来のために現在を犠牲にすべきではありません。なぜなら、もしあなたが現在の瞬間を犠牲にするなら、未来もまた犠牲になるからです。そのような仕組みになっています。しかし、生憎、一般に人間はそれに気が付いていません。

Page4

**質問**：ある人がエレブナに属していて、同時に他のグループに属することはできますか？

**K**：エレブナは人々が別のグループ、別のやり方に属するのを止めさせることはできません。しかし、エレブナはその探求者に対して、その人の進歩、その人に起こるかもしれないことに責任を持つことはできません。エレブナが与えることは全て安全であることを私たちは知っています。しかし、他の知識ややり方とミックスさせる人に保証を与えたり、それから生じる結果に保証を与えることはできません。ミックスするよりむしろ、最初にスタートした真剣なアプローチに留まるようアドバイスします。

**質問**：多くの体験があり、それによって多くを得た人が他の信念（＊他のやり方）から最大限のものを獲得して、その方法に従って唯一の真理を見ながら進むことは可能でしょうか？

**K**：勿論、真理は一つですが、その真理にどのようにしてアプローチするかは別問題であり、非常に重要です。私たちが真理にどのようにアプローチするか？**相対真理の様々なレベルを通じて、唯一の真理にアプローチします。**過去の全ての経験は、今日の新しいビルを築くための助けとなるでしょう。私たちは過去の経験を投げ捨てることはしません。エレブナに属する真理の探究者として私たちは、過去においてはそれぞれ様々な道を辿ってきました。そして今、これまで経験してきたことは全て過去に属するものであり、それはある程度私たちの助けになったのですが、私たちは今先に進もうとしているのです。今ある私たちはそれが誰であろうと、様々な道を辿ってきた過去の経験の結果なのです。

勿論、私たちは常にエレブナのメンバーであったわけではありません。エレブナは数年前にできたばかりです。私たちは今、エレブナと呼ばれる傘の下にいますが、私たちが今アプローチしているものを過去においてもアプローチしていたとは限らず、また別の名前で今日エレブナに属しているとは限りません。未来においては、それは再び異なるでしょう。私たちが未来においてアプローチできるものは、今日アプローチしているものよりもずっと高いものです。進化、成長があり、私たちは静止しているわけではありません。前進します。真理の探究者である私たちは、自分たちが全てを知る状態・レベルに到達したと宣言して、それらのイリュージョンを生きるわけではありません。探求者として私たちは新たな相対真理を発見し、何であれ表面に浮上するものと共に進むのです。過去の様々な道からの全ての経験を使うことはできますが、より強くより美しいビルを築き始めるためには、それよりずっと真摯な探求において助けになるものを選択する必要があります。現在ある私たちは過去の結果である、という事実を覚えておくべきです。

**質問**：この惑星は、二千年と比べてより高いエピグノシスを達成したと言えるでしょうか？

**K**：そうです、現在地球にいる人間はより高いエピグノシスを有しています。気づきの一般的レベルは、今この地球に存在する明らかな痛みにも関わらず、ずっと高くなっています。二千年前には、“命”は現在と比べると遥かに安く、遥かに大きなスケールで犠牲にすることができたのです。

**質問**：それでは、汎宇宙的潜在意識に入ることのできる神秘家は、過去から現在までこの地球のみならずあらゆるところにおいて記録されたものを見たり、あるいはそれと接触することができるのだと思いますが、もしそうなら、なぜそのパーソナリティーは気づきのフィルターをとおる必要があるのですか？

**K**：なぜなら、そのアプローチは気づきのフィルターを通じてなされるからです；汎宇宙的記憶あるいは汎宇宙的潜在意識との同調は、気づきというフィルターを通じて行われるからです。

気づきのレベルが、出来事の真の記録をそれだけ歪めるからです。勿論、もし誰かが現在のパーソナリティーの自己実現のレベルに到達していれば、それは別問題です。

**なぜなら、その場合には気づきのフィルターはもはや存在せず、そのパーソナリティーはそれらの出来事に記録してあるとおりに到達することができ、解釈によって到達するわけではないからです。もはやフイルターを通じて行われることはありません。**

自己実現したパーソナリティーは、実存の諸世界において、ある種のフィルターと共に現在のパーソナリティーとして自らを表現しますが、その場合のフィルターは他の一般のパーソナリティーのフィルターと同じではありません。それはその人が他の人々から理解されるのを助けるためのフィルターです。もし自己実現したパーソナリティーがその種のフィルターを使わない場合、その人は自分を他の人々に理解させることができないでしょう。

それはもはや気づきの問題でもなければ意味の問題、つまり意味の創造を通じた制限でもありません。その時、意味は理解してもらうために使われるのです。実際には存在しないフィルターを、（便宜的に）作るのです。

Page5

**質問**：現在のパーソナリティーとして、特定のレベルからの気づきの働きとは別に、思考・行動の仕方として、物事はどうあるべきかという“エピグノシス”があります。しかし、パーソナリティーは経験的知識を通じてそれを知っているわけではありません。この“エピグノシス”はどれほど信頼できるのでしょうか？

**K**：はい、あなたは自分の思考・行動の仕方の結果として表現された何かについて意識しています。しかし、実際あなたは自分の“エピグノシス”をそのようなものとして気づいているわけではありません；ある真理、ある知識が内側から発せられているのに気づいていますが、しかしそのような経験を経ているという気づきあるいは記憶がありません。

いかなる経験的知識であれそれが表現される以前に“エピグノシス”が先行する、と言うことができます。

もしあなたが過去の様々なパーソナリティーについて見てみると、それらのパーソナリティーは創造的エーテルを使用して高レベルの能力を表現しているにもかかわらず、彼らは現在のパーソナリティーとしては低レベルの気づきを表現しているのがわかるでしょう。

勿論、何が善であるかという私たちの概念も絶えず変化していることも事実ですが、しかし、それらのパーソナリティーのなかには当時の人間の一般的な気づきのレベルよりも低い人たちもいます。

人間は最初は役者であり続けますが、**エンドスコピシスのワークが進むにつれて徐々に、ゆっくりと**

**自分の内側にいる役者に気づくようになります。**

自分で“自分自身”を見つめ、役者を演じている現在のパーソナリティーを観察するのは、真理の探究者にとって困難なことかもしれません。大部分の人にとって、それまで本人が想像していた自分とは異なる“自分”を認識するのは苦痛で不満足なことです。

**この時期は自分のなかにいる役者を見始める時であり、**

**さらにもっと勇気をもって見つめれば、現在のパーソナリティーという見かけの背後に**

**さらにもっと役者を発見することができるでしょう。**

それはコンピューター・プログラムの“ウィンドウズ”と似ています！

役者を発見した探求者は、だからといって、自分を非難したり、自分をさげすんだりすべきではありません。むしろ、役者である自分を見るポイントに到達したことに感謝すべきです。なぜなら、その発見なしには自分自身についてワークを始めるのは不可能だからです。

時間が経過するに従い、人は“エゴ”としての現在のパーソナリティーを満足させるために、現在のパーソナリティーと道化役者の機嫌を取るようなポイントにまで到達することもあります。

それは最良の方法、もっとも安全な方法です。さもないと、役者であり続ける私たちが現在のパーソナリティーを助けようとするなら、ますます優秀な役者になってしまうという危険があるからです。そして、パワーと能力として私たちが獲得した個人的利益を失うことに抵抗するようになります。真の自己を発見することは、意識的にそれらのパワーと能力を脇において、新たにスタートすることを意味します。あなたの気づきがより高いレベルに到達すると、その高い気づきのレベルから見ると、自分が表現していることがもはや許しがたい、受け入れがたいと感じることでしょう。その人は今や、自分が入った道の真剣さに気づくのです。

**質問**：私が理解する限りでは、

私たちは人間のイデアを通じて降下し、

**永遠のアトムとして物質界に入ってきましたが、**

しかし、現在のパーソナリティーを現す三つの体の装いと共に孤立してしまいました。

これらの三つの体は物質の影響を受け、無知の中に取り込まれています。

パーソナリティーは今や、セルフ・エピグノシスと共に意識の上昇を通じて無知からそれ自身を

解放しなければなりません。そして、究極の目的は元来そうであった光になることです。

ただ、その時には新しい色を帯び、それは意識的に絶対エピグノシス、そしてまたモナド・セルフとして確認することができるようになります。

**K**：そうです。現在のパーソナリティーは能力を完全に表現する自己実現のポイントに到達するようになるでしょう。それは人間のイデアから生じ、現在のパーソナリティーの素質的可能性として与えられている能力です。自己実現を表現するために助けとなった諸経験（それはまた他の全てのモナドとは異なる何かである個人の自己実現を示しますが）は、魂のセルフ・エピグノシスに提供される色（カラー）となります。ヘブンにはそのような意味での“パーソナリティー”はありません。

Page6

**質問**：様々なパーソナリティーと共に働く、あるいはかなり高い世界に存在する実体のための媒体（＊霊媒）として働いている、と主張する人々がしばしばいます。それらの実体はしばしば、かってある時期に地球に生きていた誰それであると自ら述べています。

**K**：それが魂のセルフ・エピグノシスであろうとあるいはスピリットであるモナドセルフ(Spirit Monad Self)であろうとも、そのスパークを特定する唯一の方法は、表現されていて、聖なる奉仕を提供しているパーソナリティーを通じてです。

**質問**：しかし、実際、そのパーソナリティーは多様性と共に働いています。なぜなら、全ては全てのなかにあるからです。それゆえ、それは多くのパーソナリティーを代表しているかもしれません。

**K**：その源に到達する方法は、知られているパーソナリティーを通じてです。実存の諸世界における特定の動きを通じて、私たちはそのオリジン、源に到達できるのです。例えば、福音書のヨハネの場合を見てみると、彼は福音書のヨハネとして転生したスピリットです。それはいまや永遠のアトムのことではありません。なぜなら、福音書のヨハネを表現したスピリットは、その一人のパーソナリティーとして転生したからであり、それはそのスピリットであるモナドセルフによって表現された唯一のパーソナリティーです。それには聖なる目的がありました。なぜなら、その転生は純粋に、イエス・キリスト・ロゴス（Jesus Christ Logos）の下降と現れに伴って、それを助けるためだったからです。

実際、これらの諸世界からコンタクトできるものは、その特定のパーソナリティーとして転生したスピリットからのスパークです。

私たちはその特定のパーソナリティーとして転生したスピリットにコンタクトすることは不可能です。**現在のパーソナリティーとして私たちが存在の諸世界にすらアプローチできないのに、いかにして絶対存在のアウタルキー内のスピリットにアプローチできるでしょうか？**

**質問**：しかし、福音書のヨハネとしてのパーソナリティーは汎宇宙的記憶のなか、永遠の今のなかにいます。それゆえ、実存の諸世界からそのスパークにアプローチできるのではないでしょうか？

**K**：そうです、同調(attunement)を通じてできます。しかし、それによって現されるものは、現在のパーソナリティーの気づき、というフィルターを通過した結果であり、それは必ずしも特定の存在（Being）が提供しようとしたものではないかもしれません。

**質問**：チャネリングを利用することができますか？

K：エレブナではチャネリングを認めていません。（＊エレブナにおける私たちの）努力は思考・行動の仕方としてのより高い気づきを現すことです。エレブナで認められているのは、存在の諸世界において別のヘブンのリアリティーを生きている存在との同調です。それらの存在はそれらの諸世界と法則のリアリティーを私たちが理解するのを助けようと努力しています。

私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

EREVNA/MAC27/EM/14KE3.